



1988・夏・第36号

Аgora

アゴラ

鶴見大学図書館報



目 次	
青春の日の想いは遠く……………	北村中也…………… 1—2
菟書日誌（五）……………	大屋幸世…………… 3
夏期休暇中の推薦図書……………	…………… 4—7
昭和62年度図書館年次報告……………	…………… 8—13
新刊アラカルト……………	…………… 14—15
図書館だより……………	…………… 16

青春の日の想いは遠く

歯学部教授 北村 中也

ある日の夕方、図書館より電話がかかってきた。「何か原稿を書いて下さいませんか」という。元来、人からものを頼まれたら嫌といえない全く気の弱い性格が、この時にもあらわれてしまい、「図書館は、あまり利用したことがないのですが——、原稿メ切りは何時ですか」と断わるでもなし、引き受けるでもなしの答え方をしてしまい、結局、「じゃ！よいですよ」と引き受けてしまう羽目になってしまった。今、早急に書かなければならない学会誌の投稿論文や出版社からの依頼原稿があるというのに……。

さて、原稿メ切り日が近づくに従って、気もそぞろになり、某作家みたいに、いくつもの雑誌社へ原稿を書いたりする能力のない私にとっては、その重みが肩にかかり、時がや

たらに過ぎていくのを腹をたてても仕方がない、つまりは原稿を引き受けた自分が悪いのだと諦めざるを得ない。

私は小さい時から本を読むことは大好きだった。幼稚園児や小学生であった頃、父がよく成績が上がったから、習字や絵の展覧会に入賞したからと、その都度御褒美に図書や雑誌を買ってくれた。しかも1冊でなく4～5冊は買ってくれ、それが度重なりと何時の間にか本棚に一杯になる。すると同級生や近所の子供達が雑誌や図書を読み集まり、わが家は恰も児童図書館のようであった。

雑誌は主に「幼年倶楽部」「少年倶楽部」「小学〇年生」などで漫画本は一切なかった。図書は伝記物が多く、少年少女文学全集、講談物などもあり、学校の教科書以外の本を読む

チャンスは、非常に多い環境で育てられた。

そのおかげかどうかかわからないが、綴方(今の作文)や童謡を作ることは得意であった。何度か雑誌に掲載されたり、賞をもらったりしたことが子供心に自信を持たせたことはいうまでもない。将来、作家になろうなどという、途方もない夢を幼心に抱いたのであった。

時は流れ、大学入試に失敗し、浪人していた時、作家の Y 氏と知り合い、時々お宅へ伺った。Y 氏は、当時「江戸川乱歩賞」を受賞し、将来有望な新進気鋭の探偵作家であった。ある時、将来何になりたいかと聞かれ、作家になりたいと答えたら、作家の道は厳しいといわれ、もし作家になりたいければ、まず生活の途をたててからしなさいと云われた。当時は、戦後すぐのことでもあり、社会事情も悪く、作家で飯を喰うなどは並大抵なことではない。

東京医科歯科大学歯学部専門課程へ入学した時(当時は進学課程の学生募集をしていなかった)、さあ！これで受験勉強は終わったんだ、何か好きなことをしてみたいなどと、歯学部のカリキュラムがどんなに大変なのか、全くわかっていない一学生であった。

同人雑誌を作らないかと、二・三の友達に声をかけたが誰も相手にしてくれない。それでも根気よく勧誘していたら、数人の同志が集まってきた。毎日、午後実習で追われているので、文章を書いたり、批評したりする余裕などある筈がない。そこで諦めて、明治大学、中央大学、日本大学など、駿河台周辺部にある大学へ人伝に同志を集めた。夏休みに入る前であったと思うが、某喫茶店で同志 14~5 人集まり、一端の文学論を論じ、芥川賞、直木賞へと自分の能力などまるで考えずに夢をふくらましていた。そして同人雑誌の名前が「三田文学」「早稲田文学」の向うを張って「湯島文学」ではという意見もあったが、最後は私が提案した青春文芸の二字をとって「春芸」に落ちついてしまった。

貧乏学生の文士志望では、到底印刷された雑誌など出来得る筈がなく、「春芸」創刊号は、各自の原稿を整理し、原稿用紙を閉じた物で、夏休み後に回覧したが、雑誌とは程遠いものであった。しかしながら、同人だけでなく、多くの学生の目には止まったようである。何人かの友に励まされ、気をよくし、2号は自分達の手で印刷して発行しようということになった。

原稿が集まると、編集会議を開き、雑誌のサイズを決め、原稿整理、一頁ごとのレイアウトがきまれば、鉄筆で謄写版原紙切りとなる。原紙切りが大変である。同人のなかで字の上手な K 君が、一字、一字丁寧に原紙を切っていく。この労力は、現在の若い人にはわからないと思う。一週間位かかって全部切り終わると目次に頁を入れる。さらにあとがきや奥付も切り終わると校正の段階に入る。

印刷は、K 君が日比谷公会堂の地下に電動輪転印刷機があるからそれを使おうという。どうして彼がそんな所に印刷機があるのを知っていたのか忘れてしまったが、とにかく数人で行った覚えがある。

同人の中に画家志望もおり、表紙の絵を書いてもらい、製本をし、ここに自分達の手で2号を発刊し、40円で売ることにした。考えてみれば空恐しいことで、授業には出席していても、後の席に坐わり、作家気取りで幼稚な文章を綴り、または詩をつくり、一人悦に入っていたのだから。

世の常の如く、同人雑誌は3号か4号で泡の如く消えると云うが、「春芸」も4号でこの世から姿が消え去ったのである。

大学を卒業後、口腔衛生学会雑誌の編集長をされた故大西正男教授の下で、編集の実務に携わったのを切っ掛けに約18年間続き、今年4月から編集責任者となり、若き日の作家の夢は消えつつも、文字の虜となるのは宿命か。

蒐書日誌 (五)

文学部教授 大屋 幸世

某月某日

神田古書会館、窓展。戦後の娯楽雑誌「苦楽」10冊ばかりある。値を見ると300円と800円とに分かれている。どうしてなのか理由不明。300円の方を4冊買う。「苦楽」もだいぶ手元に増えてきた。「苦楽」と言えば、すでに大正期「女性」を出していたプラトン社のものがあるが、それとは比べものにならぬ粗末なものだが、それでも表紙絵は一貫して錦木清方、これがよい。そして内容も娯楽大衆誌としてバカにはしてはいけない。正宗白鳥、宇野浩二、佐藤春夫、折口信夫らの執筆もある。たとえば今日買った昭和24年1月号には元東大教授辰野隆と名エッセイスト高田保の対談がある。ともに世相に通じた教養人と言ってよからう。これが面白い。一つ例をあげれば、高田保の発言に「田舎から東京へ転入した男が「住めば都といひますからね」といった話がありますね。(笑)」というのがある。すでに昭和24年あたりに、「住めば都」ということわざの意味の取り違えがあったことが知られる。こういう点がわかるのが面白い。

某月某日

神田古書会館、趣味展。戦前の文庫本に収蔵あり。羊門文庫、はじめて知った文庫。名古屋で発行されたもの。巻末にある刊行の趣旨に「この文庫はドイツのレクラム文庫、日本の岩波文庫に範をとり、基督教文学を主とし、其他宗教哲学文藝科学等種類の如何を問はず、洋の東西その古今に亘って真に古典的の価値あり、生命ある不朽の書を極めて簡易なる型式に於て逐次刊行し」とある。私の得たのはその10、大庭柯公の『柯公隨筆』(昭13・7・30)。大庭柯公と言えば、ロシヤ通のジャーナリスト、隨筆家として有名。革命後のロシヤに渡り、その後モスクワあたりで銃殺されたらしいというその最期もなぞを含んでいる。柯公、最近再評価され始め、中公文庫に『露国及び露人研究』『江戸団扇』が収録されている。帰途、東西線の車中で『柯公隨筆』を読んでみる。二番目に「球家文化」というのがある。何のことなのかと思って読んでみると、冒頭「「まりや」文化と読む。大概の人には何の事やら分るまい。球はグローブを意味するので、世界の知識と物品とを集めるといふ趣意から慶応の何年かに、西洋の書籍、唐物類、西洋家具の直輸入を企てたのが、球家である。」と

ある。何のことはない<丸善>文化のことなのだ。しかし丸善が丸屋善七から来ているのは周知のことだが、その前に<球家>と号していたとは私には初耳である。いずれにしろこの隨筆、丸善文化の簡潔な面白い略史となっている。

後記1 図書館で『丸善百年史』を見てみたら、

丸屋と号する前、少期間球屋と称していたという記述があった。但し<球>は地球の意ということである。

後記2 後日自宅で雑誌の整理をしていたら、「本の周辺」4号(昭50・9)に、柯公のこの「球家文化」が再掲載されていた。丸善小史として好エッセイだからなのだろう。

某月某日

神田朝日書林より、戦前の全集の内容見本大量にはいったので見に来ないかという連絡あり、早速出かける。なるほど沢山ある。しかしすでに架蔵しているものもあり、買ったのは「ボードレル全集」「チェホフ小説選集」など7点。ひとつの収蔵は「世界文学のしおり—世界文学全集の感想集」。1500円。昭和初年代のいわゆる円本合戦の二大柱、新潮社の『世界文学全集』(もうひとつはいうまでも改造社の『日本文学全集』)の内容見本は二種類手元にあるが、この感想集は知らなかった。感想集といっても、一般の読者のものではなく、吉野作造、徳田秋声、片上伸ら有名人のもの。しかしそれ以上に貴重なのは、それに付して「全集翻訳者の言葉」が掲載されている点である。特に私の目を射たのは秦豊吉の「鷗外博士への抗議—『ファスト』その他—」という一文だ。秦は「『ファウスト』には、すでに鷗外博士の名訳がある。しかし僕の翻訳は、鷗外博士の翻訳と根本的に相容れない点がある。」と言って、鷗外がメフィストをファーストの悪友か家来かのようにおとしめているのを、自分の訳では「メフィストを以てファウストに対当する同じ力を持つ友達とした」とし、「それは『ファウスト』—巻を寧ろメフィストの芝居だとしても好いと考へてゐるからである。この僕の解釈は、鷗外博士の『ファスト』に抗議を持ち出すだけの自信がある。」と述べている。なるほどなどと思う。これは日本における「ファースト」受容史に一石を投ずるだけの価値ある発言と言える。

夏期休暇中の推薦図書

最近の図書から

日本文学科教授 山下 一海

(1)大正時代の中ごろ、長野県に信州白樺派とよばれる一群の教師がいた。彼らは、武者小路実篤の思想に共鳴し、芸術上の天才を礼賛して、自由と平等の教育を主張し、校長と衝突して村民の反感をかっした。そういう白樺教師の一人であった赤羽王郎は、信州の教育界から追放され、以来、朝鮮・奄美・北京・花巻などを教師として遍歴しながら、教育の理想を追求した。本書はその王郎の生涯を克明に調査し、簡潔的確な文章で描きあげたもの。一編の文学作品として読むことができる。

(2)気鋭の芭蕉研究家として知られている著者の第一論文集である。いままでこの人に著書がなかったことが不思議なくらいだ。ここ十年くらいに諸所に書いたものを集めたものだが、全体の調子は見事に一貫している。綿密な研究的態度と、柔軟な詩人的感性が、ほどよいバランスを保っている。論文の手本として襟を正しながら読むことができるし、知的な刺激に満ちたエッセイとして楽しみながら読むこともできる。「古池や蛙とびこむ水の音」は、伝統的な鳴く蛙を、鳴かせずに飛び込ませたところに画期的な意味があったとする名論文「蛙」も収められているし、芭蕉と歌枕の問題について論じた評判の論文「もう一つの〈細道〉」もここで読むことができる。

(1)この道を往く一漂泊の教師赤羽王郎一

今井信雄 講談社 1988 1,500円

(2)芭蕉 白石悌三 花神社 1988 2,800円

ニューヨーク探訪

英米文学科教授 森 邦夫

ニューヨークはアメリカ文化にかかわる人が、一度は訪れたい場所。たとえ行くチャンスがない人でも、ここにある生活と文化を知ることには実に興味深い。

(1)1950年代のニューヨーク生活を体験した大学教授の手になる、知的なガイドブックはいかが。この本を通して、アメリカの歴史と文化が見えてきます。

(2)ニューヨークにはいかに世界じゅうからの人間が集まっているか、その多様な民族と生活ぶりに着目した、ニューヨーク在住の女性の手になる陽気なガイドブックもおもしろい。(イラスト入り)

(3)ニューヨークに生活する青年を主人公とするこの小説を読み、しばしその雰囲気にも浸るのも悪くない。新進の小説家の手になるこの翻訳、案外日本人にも興味深いかもしれない。

(1)ニューヨークに見るアメリカ 本間長世 新潮社 (新潮選書) 1987 800円

(2)アイ・ラヴ・ニューヨーク 宮本美智子 文藝春秋 (文春文庫) 1986 480円

(3)ブライト・ライツ、ビッグシティ ジェイ・マキナーニー 高橋源一郎訳 新潮社 1988 1,300円

さあ、夏休みにブックハントを!

文学部講師 間宮 厚司

夏休みは楽しい。それは普段の様々な束縛から解放され、自由な時間が多く持てるからである。そして、夏休みの始まりは、いつも何かを期待させる。しかし、夏休みも終わりに近づくと、あれもこれも為残したという後悔の念で一杯になる。これは程度の差こそあれ、皆同じであろう。では、そういう気持ちにならないためには、どうしたらよいのか。答えは簡単。それは夏休みに多大な期待を抱かなければよいのである。特に若い時は、何にでもむやみに期待してしまう。それが年とともに、何事も期待のしすぎが一番いけないと、徐々に無意識のうちに悟るようになる。

というわけで、下記の三冊にも特別な期待は禁物である。(1)は多くの心理実験、調査を踏まえたもので、ちょっぴり真面目なあなたに。(2)は誤りを恐れて、いつもビクビクしている気の小さいあなたに。(3)は対人関係をマ〜ルくして、幸せな青春を夢見るあなたに。

本は人と違い、こちらが付き合いたいと思う時に、いつでも相手をしてくれる。また、付き合いをやめたいと思えば、いやがらずにすぐにやめてくれる。本は読み手の好き勝手なペースに合わせてくれる。だから、わがままな人には、本は最良の友となろう。そんな友くらい自分自身の目で、労をいとわず探すのが自然な姿と思う。そこで、身だしなみを整えて、ブックハントをしに図書館や書店へ積極的に出かけてみては。素晴らしい本との偶然の出会いをほんの少し期待しながら…。

円 000.1 8781 (58・支本行・書籍支那)

- (1)好きと嫌いの心理学 詫摩武俊 講談社 (講談社現代新書) 1983 420円
- (2)まちがったっていいじゃないか 森毅 筑摩書房 (ちくま文庫) 1988 400円
- (3)ヤングアダルト情報源II [対人編] サンマーク出版 1988 980円

ロマンと真理を求めて

歯学部助教授 佐々木 史江

第2次世界大戦(1939~1945年)をはさむ昭和の激動期に、自然を親友とし、自然の仕組みの真理を科学しつづけてきた2人の生物学者の最近の著書を読んでほしいと思います。

おそらく学生諸君は、自然科学の古典をひもとく時間的余裕もなく、今脚光を浴びている分野のものとか、バイオサイエンス等にはばかり目が行き“生物らしい”ところをパスしてしまう傾向にあるのではないかと思います。

長い年月、じっくりと対象とつき合っておられる団勝磨博士の「ウニと語る」、森脇大五郎博士の「遺伝学ノート-ショウジョウバエと私-」では両先生の科学するところとは、研究への執念とはどんなものなのか、をうかがい知ることが出来ます。つらい“お勉強”とは違って、どのように自然を見ていったらよいのか、科学することの楽しさ、ロマンがいっぱいにあふれております。新しいものの創造と言うより、“ウニの言葉、ショウジョウバエの訴えを理解してやれるのは自分なのだ”というものの見方がでております。根っからの生物学者として、それぞれの研究を支えつづけた感激が私共の心底をゆさぶります。

私もカエルの言葉を、おたまじゃくしの夢を理解し、ヒトの言葉へ翻訳したいという気持ちでいっぱいになりました。

ウニと語る 団勝磨 学会出版センター 1987 1,800円

遺伝学ノート-ショウジョウバエと私- 森脇大五郎 学会出版センター 1988 1,800円

奥の細道三百年に因んで

国文科教授 久富 哲雄

昨年の夏には「古典ゆかりの地へ」旅行しようということを書いた。今年は古典の研究書を熟読することを勧めたい。

対象とする古典は『伊勢物語』でも『新古今和歌集』でも、あるいは『徒然草』でもよい。注釈書でない、固い研究書をじっくり読んで暑熱を払いのけてみようではないか。

奥の細道三百年と銘打って、郵政省では奥の細道シリーズ切手を既に第6集まで発行している。松尾芭蕉が奥羽北陸行脚、いわゆる『おくのほそ道』の旅をした元禄2年より数えて、明年は三百周年に当るというわけで、関係各地では様々な関連行事が催されることであろう。しかし、肝心の『おくのほそ道』について相当な知識を持っていないのでは、折角行事に参加しても得るところは少ないだろう。そこで一冊の研究書の熟読を勧める。

東洋大学短期大学教授村松友次著『曾良本『おくのほそ道』の研究』がそれである。全四章から成る大著の結論だけを言うと、曾良本『おくのほそ道』は芭蕉の原草稿の最も忠実な写しであり、これに加えられている補訂は後に芭蕉自身が施したものである。素竜清書本(西村本)は曾良本の写しで、書写の仕方が粗雑であるから、今後は曾良本を『おくのほそ道』の原本として扱うべきである、というのである。

この『おくのほそ道』本文研究上画期的な村松教授の見解を熟読して、国文学会秋季講演会に出席してもらいたい。講師は村松友次博士である。

曾良本『おくのほそ道』の研究
村松友次 笠間書院 1988 14,500円

寺子屋の教育

保育科教授 西村 文夫

ジリジリ暑い夏がくると神奈川県教育史の仕事で、筆子塚、往来物、五人組帳等を採録したころを思い出す。汗まみれの断片史料は欠落部分を補い、やがて原像を生み出す。

この喜びは最良の消暑剤となった。大切な事はデータ選別で読書でも同じ事。

1冊ごと判断しつつ自分の好みや精神のタイプが生まれる。本との本格的お付き合いである。近代学校前に寺子屋教育があった。身動きもならない江戸期は思われるが、実はがんじがらめではない。寺子屋教育に国の干渉はほとんどなく、最高学府(昌平坂学問所)は庶民に開放、算数は庶民の娯楽、子らの教育に人々は熱心(「江戸空間」)。神奈川で江戸圏・街道筋・小田原と幕末の横浜の事情は興味深い(「神奈川県教育史」)。

全国1万5500余の寺子屋の教材は職業万般に及んで約7千種(「商売往来」)。学習の生活、内容に共通性多く、系統立ち、幕末転換期に語学の初歩学習にこの手法は応用されるなど近代国民教育へ強靱に連らなっていった(「藩校と寺子屋」)。どれか1冊でよいのです。

江戸空間 石川英輔 コナミ出版 1987 1,500円

商売往来の世界 三好信好 日本放送出版協会 (NHKブックス537) 1987 750円

藩校と寺子屋 石川松太郎 教育社 (教育社歴史新書・日本史・87) 1978 1,000円

神奈川県教育史 (通史編上) 県教委(非売) 1978

味覚のトレーニング

歯科衛生科助教授 新井 松夫

以前ある大学の入試に、「人生にとって最も幸福なことは、地中海沿岸に住み、中華料理を食べ、日本の女性を妻にすることである。」という英作文が出題され、物議をかもしたことがあります。昨今のグルメブームは、前述の英作文を彷彿させ、当時が高度経済成長への開闢期であったことを考えるといささか複雑な感慨になりますが、これはさておき、この夏、グルメになるための味覚のトレーニングをつみ、来る秋のうまい物を十分に味わってみてはいかがでしょう。

紹介する「味覚のトレーニング」は、料理に対する炯眼と頑固なまでに自己の舌先を自認してやまない雑誌「四季の味」の編集長である森須滋郎氏が書かれたものである。うまい物を味わっただけではトレーニングになりませんという著者の味覚トレーニング法とはいかに。

自分に超能力のあることを知りながら、市井の平凡なサラリーマンとして暮らす岬一郎は、ふとしたきっかけで、不治の病と医者に見放された子供を立ちどころに治してしまう。それによって起こる彼を取り巻く環境の変化、その力にすがろうとする者、無償で病む者にその力を与える彼を暖かい目で見守る周囲の人達、やがて彼のもつ超能力が国家のいかなる力をもってしても規制することができないとわかった時、国が彼に取る手段は、彼の運命、周囲の人達は、人間とは何か、人間の尊厳とは何かを問う。

味覚のトレーニング 森須滋郎 文藝春秋
1986 1,000円

岬一郎の抵抗 半村良 毎日新聞社 1988
(上)(下)各1,600円

ことばへの興味を

短大部教授 小倉 美恵子

最近ことばに対する関心は急速に高まってきたが、この夏は、ことばの世界の複雑さと面白さの中に分け入ってみてはどうか。19世紀に心理学者フルニエは、「ことばは生理学者が脳の仕組みを見ることの出来る窓である。」と言っているが、この言は人間の行動を研究するすべての科学にあてはまるであろう。実際、言語は人間行動の多くの面を解明する手がかりを与える最も重要なものである。

G. ミラー「入門ことばの科学」は、言語の進化、動物のコミュニケーション、脳の仕組み、子供の言語習得、音の生成と知覚、会話の機構、論理の基本的概念など、ことばの学際的研究の最前線をわかり易く初めて学ぶ人向けに解説している。P. トラッドギル「言語と社会」は、我々の周りで見られる現在進行中の言語の変化を、社会的要因からとらえる。豊富な実例を示しながらの、年令、階級、性別、場面、地理的要因との関係の説明はわかり易い。日本語の場合を考えながら読むと更に興味がわいてくるだろう。

上記二書と比べるとやや専門的になるが、E. サビア「言語—ことばの研究」を薦める。サビアは直観的洞察に基づく鋭い先見性を持った学者であった。70年近く前に書かれていながら、音声構造の型、駆流、言語の進化と道具の使用の関係など、現在読んでも新鮮な刺激的な記述に満ちている。私は学生時代この書に出会ったことにより将来の方向が決った。

入門ことばの科学 G. ミラー 無藤・久慈訳
誠信書房 1983 2,300円

言語と社会 P. トラッドギル 土田訳 岩
波書店 (岩波新書) 1975 480円

言語—ことばの研究 E. サビア 泉井訳
紀伊国屋書店 1957 2,000円

昭和62年度 図書館年次報告

I 図書予算及び決算（資料費）

II 資料

1. 受入冊数
2. 蔵書冊数
3. 整理冊数
4. 逐次刊行物継続受入タイトル数

III 蔵書点検報告

IV 利用状況

1. 閲覧
2. 参考業務
3. 展示

V 図書館の動き

1. 組織及び人事
2. 学外組織・団体委員等の委嘱
3. 職員研修
4. 刊行物

VI 図書委員会

I. 図書予算及び決算（資料費）

	文学部		歯学部		短大部	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
図書	56,315,000	56,310,534	19,000,000	18,988,170	23,455,000	23,452,852
バックナンバー	0	0	4,000,000	4,000,000	0	0
学術雑誌	4,000,000	3,989,390	54,500,000	54,496,525	3,100,000	3,095,990
編入	1,600,000	1,593,500	8,500,000	8,192,310	1,000,000	999,300
計	61,915,000	61,893,424	86,000,000	85,677,005	27,555,000	27,548,142
総資料費	予算(175,470,000)		決算(175,118,571)			

*但し、文学部図書費には一般図書の他に大学院準備、私大研究助成図書、博物館学、図書館学、源氏物語研究所の予算も含む

II. 資料

1. 受入冊数

受入冊数は下記の通り。但し()内は研究室図書の冊数。

和	洋	合計
13,994(594)	6,447(248)	20,441(842)

2. 蔵書冊数

昭和62年度末蔵書冊数 345,905

○登録数

図書 352,054

非図書 3,186

○除籍数 9,335

(昭和62年度除籍数：272)

3. 整理冊数

整理冊数は右表に示す通り。この他に逐次刊行物がある。

逐次刊行物 1,484 (337)

部 門	和	洋	合 計
0 総 記	570(3)	229(1)	799(4)
1 哲 学・宗 教	432(12)	39	471(12)
2 歴 史・地 理	912(9)	36(1)	948(10)
3 社 会 科 学	1,049(29)	59(8)	1,108(37)
4 自 然 科 学	1,297(271)	348(79)	1,645(350)
5 工 学	247(18)	2	249(18)
6 産 業	38(1)	1	39(1)
7 芸 術	589(7)	27(1)	616(8)
8 語 学	526(31)	211(9)	737(40)
9 文 学	2,246(25)	727(3)	2,973(28)
J 絵 本	372	5	377
T 展 覧 目 録	9	0	9
計	8,287(406)	1,684(102)	9,971(508)

()は研究室図書

4. 逐次刊行物継続受入タイトル数

	和 文	欧 文	合 計
人文・社会科学	2,080	215	2,295
自 然 科 学	725	832	1,557
逐次的刊行図書	315	296	611
合 計	3,120	1,343	4,463

III 蔵書点検報告

○実施日：昭和63年2月29日～3月5日

○不明図書冊数：314冊（和293、洋21）

○点検対象：7～9部門、レファレンスブック

除籍対象となるのは、今回及び前回（昭和58・59年度）共不明図書となった94冊（和91、洋3）である。

1. 閲覧

① 開館日数・入館者数

IV 利用状況

	1987	前年度	前年比
開館日数	265	250	106.0%
入館者数	296,733	210,056	141.3%

	学 生				教職員	講習生	合 計
	一般貸出	一夜貸出	卒論貸出	小 計			
貸出冊数	21,934	106	2,900	24,961	2,921	837	28,719
前 年 度	18,498	70	2,906	21,474	2,180	386	24,040
前 年 比	118.6%	151.4%	99.8%	116.2%	140.0%	216.8%	119.5%

学生的一般貸出（学科別・部門別冊数）

	日 文	英 文	歯 学	国 文	保 育	保 健	合 計
0 総 記	205	119	6	169	7	2	508
1 哲学宗教	257	125	26	147	75	8	638
2 歴史地理	242	160	6	112	3	4	527
3 社会科学	384	134	35	91	1,048	47	1,739
4 自然科学	80	36	2,345	45	131	446	3,083
490 医学	29	12	608	14	62	168	893
D 歯学	7	2	1,440	7	7	254	1,717
5 工 学	12	5	10	15	42	8	92
6 産 業	2	3		2			7
7 芸 術	306	175	39	192	52	2	766
8 語 学	481	216	13	159	1	2	872
9 文 学	6,040	2,010	62	5,351	124	61	13,648
910 日本文学	5,158	214	35	4,729	77	40	10,253
920 中国文学	413	8	16	220			657
930 英米文学	220	1,535	4	211	4	16	1,990
そ の 他	1	2			50	1	54
合 計	8,010	2,985	2,542	6,283	1,533	581	21,934
全 対 比(%)	36.5%	13.6%	11.6%	28.6%	7.0%	2.6%	
前 年 度	7,688	2,181	1,777	5,163	1,028	661	18,498
前 年 比	104.2%	136.9%	143.1%	121.7%	149.1%	87.9%	118.6%

*490, D, 910~930は4及び9のうち数である。

③雑誌の貸出・閲覧

	1987	前年度
学生の閲覧冊数	1,235	1,486
講習生の閲覧冊数	28	62
教職員の貸出冊数	551	621

④複写 ()内は、前年度の数値

XEROX 学内 校費	236,736枚	(228,636枚)
XEROX 学内 私費	6,232枚	(5,070枚)
XEROX 学外 私費	858枚	(1,338枚)
COIN 式	235,154枚	(111,907枚)
MICRO 学内	42枚	(5枚)
MICRO 学外	2,090枚	(1,652枚)

* COIN 式複写機の設置台数を増やしている。

⑤相互協力（件数）（ ）内は前年度の数値

	複 写		現 物		閲 覧	
	申 込	受 付	申 込	受 付	申 込	受 付
人 文	73(47)	174(170)	4(0)	0(0)	11(11)	103(69)
自 然	432(405)	5,203(3,934)	2(3)	5(3)	0(0)	8(19)
合 計	505(452)	5,377(4,104)	6(3)	5(3)	11(11)	111(88)

⑥ AV ホール映写会

回 数	開 催 日	時 間	題 名	参 加
1	62. 4. 23 (木)	4:20~6:45	ロミオとジュリエット	54名
2	62. 5. 23 (土)	1:00~3:45	愛と悲しみの果て	117
3	62. 6. 3 (水)	4:30~6:30	インディ・ジョーンズ	98
4	62. 6. 18 (木)	4:20~6:10	銀河鉄道の夜	53
5	62. 10. 13 (火)	1:00~3:00	エデンの東	64
6	62. 10. 24 (土)	1:00~3:00	誰がために鐘は鳴る	67
7	62. 11. 6 (金)	1:00~3:40	アマデウス	33
8	62. 11. 17 (火)	1:00~4:00	スタァ誕生	14
9	62. 12. 1 (火)	1:00~2:30	禁じられた遊び	26
10	62. 12. 12 (土)	1:30~3:20	ホテルニューハンプシャー	42

2. 参考業務

◎回答業務

	学 生	教 員	職 員	講 習 生	外 部	合 計
利 用 指 導	126	4	2	3		135
事 項 調 査	79	14	35	4	6	138
文 献 所 在 調 査	128	22	20	4	12	186
文 献 検 索	48					48
(うち、オンライン検索)	47					47
そ の 他	50	17	2	11		80
合 計	431	57	59	22	18	587

◎他館へのレファレンス依頼 23件

◎2Fカウンターオンライン検索 47件

3. 展示

回数	期 間	テ ー マ	担 当
43	62.7.20～8.1	本学所蔵の貴重典籍	池田利夫教授
44	62.11.14～11.27	土方久功氏の著書とコレクション	大三輪龍彦教授
45	62.12.14～12.19	計る・測る・量る	永田勝久教授
46	63.1.11～1.23	西洋地図に現われた日本	図 書 館

※ 44, 45回の展示はいずれも博物館学芸員課程と共催である。

V. 図書館の動き

1. 組織及び人事

池田利夫 (館長) 退任 (3月31日)	昭和62年度神奈川県図書館協会総会：横浜市教育会館 (4.30) 有岡
千葉元承 (教授) 新任 館長 (4月1日)	CD-ROM・OCLC オンラインサービス説明会：横浜事務長のもとに係を総務、整理、逐次刊行物、閲覧の四係制に変更する。(4月1日)
総務係 飯島弥栄子 (係長) 吉田千登世	国際ホテル (5.15) 吉田道
整理係 吉田道彦 (係長) 五十嵐恵子 鈴木芳子 高橋道枝 鈴木誠 近藤茂 池田聡子 松森久美子	第3回学術情報センター・シンポジウム：日本学術会議講堂 (5.20) 府川
逐次刊行物係 飯島弥栄子 (併任) 蓮見昭子 四方田均 平柳和巳 (新採用)	第58回日本医学図書館協会総会：高輪プリンスホテル (5.21～22) 千葉・有岡・海野・斎藤
閲覧係 海野雅央 (係長) 府川修次 斎藤房子 樋川清司 長谷川豊祐 田村早智 横割由佳 横割由佳 (閲覧係) 退職 (12月31日)	昭和62年度私立短期大学図書館協議会総大会：第2丸善ビル (5.29) 飯島
	昭和62年度第1回私立大学図書館協会東地区部会：青山学院大学 (6.23) 有岡
	昭和62年度私立大学図書館協会東地区部会研究部会：青山学院大学 (6.23) 鈴木芳

2. 学外組織・団体委員等の委嘱

神奈川県図書館協会理事 千葉元承	昭和62年度神奈川県図書館協会理事会：神奈川県立図書館 (6.25) 有岡
神奈川県図書館協会大学図書館問題調査研究委員会委員 有岡 章	神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会：平塚市図書館 (7.3) 府川
神奈川県図書館協会広報委員会委員 海野雅央	JCC カルチャー・ジャパン蔵書目録刊行システムと書籍専用収蔵庫見学：横浜郵便貯金会館 (7.6) 有岡・蓮見・長谷川
神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会委員 府川修次	16ミリ映写技術講習会：横浜市教育文化センター (7.14) 池田・横割
日本医学図書館協会「医学図書館」編集委員会委員 四方田 均	神奈川県図書館協会広報委員会：神奈川県立川崎図書館 (7.24) 海野
私立大学図書館協会図書館機械化計画ガイドライン検討作業委員会委員 樋川清司	昭和62年度私立大学図書館協会相互協力研究分科会夏期研修合宿：リゾート天城ハリスコート (8.22～24) 鈴木誠

3. 職員研修

昭和61年度関東地区医学図書館協議会：東京慈恵会医科大学 (4.3) 有岡	昭和62年度私立大学図書館協会逐次刊行物分科会夏期研修合宿：会津アストリアホテル (8.24～26) 長谷川
著作権資料協会4月著作権研究会：ダイヤモンドホール (4.21) 海野	昭和62年度私立大学図書館協会資料組織分科会夏期研修合宿：民宿やまに (8.26～28) 近藤
昭和62年度私立短期大学図書館関東甲信越地区協議会：東横学園女子短期大学 (4.23) 吉田千	私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会：慶応
昭和62年度神奈川県内大学図書館相互協力協議会総会：神奈川大学 (4.24) 海野	

義塾大学 (9.3) 長谷川 (講師)・飯島
昭和 62 年度東京都私立短大協会図書館研究協
会：私学会館 (9.7~8) 近藤
昭和 62 年度関東地区医学図書館協議会：東京大
学医学図書館 (9.18) 有岡
私立大学図書館協会機械化委員会：慶応義塾大
学 (9.22) 樋川
神奈川県図書館協会職員研修会：藤沢市総合市民
図書館 (9.25) 松森・横割
昭和 62 年度神奈川県図書館協会理事会：神奈川
県立図書館 (10.2) 有岡
神奈川県図書館協会広報委員会：神奈川県立図書
館 (10.8) 海野
神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会：平塚市
立図書館 (10.9) 府川
神奈川県図書館協会大学図書館問題調査研究委
員会：神奈川大学 (10.12) 有岡
第 8 回歯学図書館員研修会：松本歯科大学
(10.15~17) 有岡・樋川
著作権資料協会 10 月著作権研究会：ダイヤマン
ドホール (10.19) 海野
Lorenzi 博士の来日に伴うセミナー：日本大学
会館 (10.21) 四方田
神奈川県図書館協会職員研修会：鎌倉市中央図書
館 (10.23) 府川
私立大学図書館協会東地区連絡懇話会：東北学
院大学 (10.23~24) 飯島・鈴木芳
昭和 62 年度全国図書館大会：日比谷公会堂
(10.28~30) 有岡・樋川
IMIC オンライン検索講習会：野口英世記念会
館 (11.4, 11.19, 12.3) 斎藤
Bibliofile 日本版発表とセミナー：池袋センタ
ーシティホテル (11.12) 鈴木誠
昭和 62 年度私立短期大学図書館協議会全国研
修会：中野サンプラザ (11.12~13) 田村
神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会：横浜
市立図書館 (11.13) 府川
神奈川県内大学図書館相互協力協議会研修会：横
浜国立大学附属図書館 (11.13) 有岡・鈴木誠
図書館協力セミナー：国立国会図書館 (11.24~25)
府川
第 8 回大学図書館研究集会：大阪市立大
学 (11.24~26) 蓮見・吉田千
神奈川県図書館協会永年勤続優良職員表彰：神奈
川県立図書館 (11.25) 四方田

神奈川県図書館協会大学図書館問題調査研究委
員会：相模女子大学 (11.27) 有岡
神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会：神奈川
県立文化資料館 (12.2) 府川
私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会：東
京理科大学 (12.3~4) 吉田道
神奈川県図書館協会職員研修会：国立国会図書
館 (12.9) 飯島・五十嵐
神奈川県内大学図書館相互協力協議会実務者会：神
奈川大学 (12.10) 海野
昭和 62 年度大学図書館職員講習会：東京大学総
合図書館 (12.14~17) 樋川
神奈川県図書館協会広報委員会：神奈川県立図書
館 (12.17) 海野
私立大学図書館協会機械化委員会：仏教大
学 (12.18) 樋川
神奈川県図書館協会広報委員会：鎌倉市玉縄図書
館 (63.1.14) 海野
神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会：神奈川
県立文化資料館 (1.29) 府川
J-BISC 横浜説明会：丸善横浜支店 (1.29) 飯島
国立国会図書館長との懇談会：国立国会図書
館 (2.3) 千葉
神奈川県図書館協会職員研修会：大宅壮一文庫
(2.18) 田村
さわってみよう CD-ROM 実習：ヒューマンケー
ションプラザ (2.18) 田村
神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会：神奈川
県立文化資料館 (2.26) 府川
私立大学図書館協会東地区部会研究部会：共立女
子大学 (3.4) 有岡
神奈川県内大学図書館相互協力協議会連絡会議
：神奈川大学 (3.10) 海野
神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会：東京大
学総合図書館 (3.15) 府川
神奈川県図書館協会大学図書館問題調査研究委
員会：関東学院大学 (3.18) 有岡
第 7 回日本索引家協会セミナー：東京教育会館
(3.19) 府川
神奈川県図書館協会広報委員会：神奈川県立図書
館 (3.24) 海野
神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会：小田原
市立図書館 (3.29) 府川
昭和 62 年度神奈川県図書館協会理事会：神奈川
県立図書館 (3.30) 有岡

(以下 15 頁へつづく)

新刊あらかると

書名 (叢書名) 著者 出版者 出版年 請求記号

《人文科学関係図書》

情報ネットワークシステム	久慈 要/岡崎哲夫	岩波書店	1986	007.3-K
ニューメディアの事典	南 博監修	三省堂	1984	007.3-N
東北の文庫と稀覯本	河北新報社編集局編	無明舎	1987	010.212-T
本と天理図書館	中山正善	天理大学出版部	1987	017.71-N
子どもの本の講座	和田 寛	矢立出版	1986	019.5-W
WIPO 著作権・隣接権用語辞典	世界知的所有権機関編	著作権資料協会	1986	® 021.203-W
ベストセラー感覚	塩沢実信	論創社	1986	023.1-S
コミュニケーションの冒険	電通報編集部編	電通	1986	041-C
京都大学文学部博物館		京都大学文学部	1987	069.7-K
国際報道と新聞 (新聞通信選書1)	R. W. デズモンド	新聞通信調査会	1983	070-D
神奈川のお医者さん	読売新聞社横浜支局編	かまくら春秋社	1986	K-K
おもしろ図解ガイド① ザ・神奈川	服部一景取材・執筆	日本交通公社	1987	K-K
神奈川県社会事業形成史	芹沢 勇	神奈川新聞厚生文化事業団	1986	K-S
横浜市美術館「子どものアトリエ」調査委託報告書	海野阿育編	子どものアトリエ研究会	1986	K 1-K
相模川流域の自然と文化 平塚市博物館ガイド		平塚市博物館	1986	K 9-H
やわらかい時代の発・創・術	深川英雄	読売新聞社	1987	141.5-F
魔術の歴史	J. B. ラッセル	筑摩書房	1987	147.1-R
碧眼日本民俗図絵	吉村善太郎編著	雄松堂出版	1987	210.5-H
F. ベアト幕末日本写真集		横浜開港資料館	1987	210.58-B
倫敦千夜一夜	ピーター・ブッシュル	原書房	1987	233.3-B
北京の風物 民国初期	鄧雲郷	東方書店	1986	292.2111-T
オリエント急行 (とんぼの本)	窪田太郎ほか	新潮社	1984	293.09-O
世紀末ウィーンを歩く (とんぼの本)	池内 紀ほか	新潮社	1987	293.4609-I
アール・ヌーヴォーの世界 全5巻	相川俊一郎編	学習研究社	1987	702.06-A
ちよさんぼく 書と詩が好きになる本	渡邊寒鷗	ぎょうせい	1987	728.04-W
創る・動くおもちゃ (ブルーボックス B-647)	酒井高夫	講談社	1986	759-S
テニス (文庫クセジュ 683)	アンリ・コシエ	白水社	1987	783.5-C
シェイクスピア 舞台と劇世界(演劇らいぶらり4)	浜田志保子	南雲堂	1987	932.7-H
D. H. ロレンス紀行・評論選集 全5巻【刊行中】	小川和夫ほか訳	南雲堂	1987	939.8-L
オハイオ・ニューヨーク物語	シリル・R・リーイ	早川書房	1987	934.0-L

《社会科学関係図書》

複眼のモスクワ日記	川崎 洩	中央公論社	1987	302.38-K
リトル・トウキョー100年 (とんぼの本)	米谷ふみ子ほか	新潮社	1987	334.45393-K
テキストとしての日本	モーリス・パンゲ	筑摩書房	1987	361.6-P
日本の父親と子供	総務庁青少年対策本部編	大蔵省印刷局	1987	367.3-N
ピューリタンの末裔たち アメリカ文化と性	亀井俊介	研究社出版	1987	367.6-K
田岡嶺雲・女子解放論	西田 勝編	法政大学出版局	1987	367.8-T
日本教育の戦後史	中内敏夫ほか	三省堂	1987	372.107-N
これがコンピュータ教育だ	坂元昂・東洋編	ぎょうせい	1987	375.19-K
学習塾	結城 忠ほか	ぎょうせい	1987	376.8-Y

書名 (叢書名)	著者	出版者	出版年	請求記号
女子の高等教育 (女子教育研究双書 8)	日本女子大学女子教育研究所編	ぎょうせい	1987	377-J
夢工房の子どもたち 全10巻	宮脇 和	創和出版	1986-	379.3-M
毛利子来の親子塾 全6巻 【刊行中】	毛利子来	晶文社	1987	379.9-M
盛り場のフォークロア	神崎宣武	河出書房新社	1987	380.4-K
縛られた巨人 南方熊楠の生涯	神坂次郎	新潮社	1987	382.1-M
日本婦人洋装史	中山千代	吉川弘文館	1987	383.15-N
吉原はこんな所でした	福田利子	主婦と生活社	1986	384.9-F
ケガレ (民俗宗教シリーズ)	波平恵美子	東京堂出版	1985	387-N
昔ばなしとは何か	小澤俊夫	大和書房	1983	388-O
世界の英雄伝説 全10巻 【刊行中】	高橋静男編訳他	筑摩書房	1987-	388.08-S

〈自然科学関係図書〉

地球は青かった (岩波ジュニア新書 130)	平田 寛編著	岩波書店	1987	402-H
発見から創造へ (地人選書 24)	桜井邦朋編	地人書館	1987	404-H
パソコン統計解析ハンドブック 全3巻	脇本和昌ほか編	共立出版	1984	417.5-P
宇宙人はいるだろうか (岩波ジュニア新書 116)	水谷 仁	岩波書店	1986	440.4-M
あわの科学 (地人選書 4)	阿部友三郎	地人書館	1986	450.4-A
「死の医学」への序章	柳田邦男	新潮社	1986	490.14-Y
医学史研究余録	服部敏良	吉川弘文館	1987	490.21-H
人体スペシャルレポート(ブルーボックス B-710)	Quark 編	講談社	1987	491.3-J
老化のなぞを解く (シリーズ 1990)	松崎俊久編著	東京書籍	1987	491.358-R
脳の探検 上 (ブルーボックス B-699)	フロイド・E・ブルームほか	講談社	1987	491.371-B
治療の歴史断章	治療学編集委員会編	ライフサイエンス出版	1986	492-C
東洋医学の時代	代田文彦編著	東京書籍	1987	492.7-T
ボケに強くなる (ブルーボックス B-706)	大友英一	講談社	1987	493.18-O
予防医学のあけぼの	H-J. ノーマン	日本公衆衛生協会	1984	498.02-H
きょうから使える歯の保健指導ハンドブック	木下洋子	東山書房	1987	D4-K
イギリス田園都市の社会史	W. アッシュワース	御茶の水書房	1987	518.8-A
江戸建築と本途帳 (SD 選書 89)	西 和夫	鹿島出版会	1984	521.5-N
図説万国博覧会史 1851-1942	吉田光邦編	思文閣出版	1985	606.902-Z
遊園地の文化史	中藤保則	自由現代社	1984	688.21-N

4. 刊行物

① 広報資料

館報「アゴラ」第31号～第34号

各 2,500部 (32号は 3,000部)

新着図書案内 第103号～第112号

各 41部

② 書誌・目録

逐次刊行物所蔵目録 欧文編 1988年1月

現在 350部

VI. 図書委員会

委員：高田信敬助教授 (日文)、森邦夫助教授 (英文)、岡田靖助教授 (文一)、桑原洋助教授、藤田浩教授、佐々木史江助教授 (歯学)、久富哲夫教授 (国文)、岩崎洋子教授 (保育)、塚本信之教授 (保健)、伊藤克子教授 (短一)、千葉元丞図書館長、有岡章図書館事務長、山本龍太郎歯学部事務長

5月28日 (木) 第1回図書委員会

7月2日 (木) 第2回図書委員会

11月26日 (木) 第3回図書委員会

図書館だより

◎閉館日のお知らせ（7～10月）

8月12日(金) } 閉館日
 }
8月16日(火) }
9月30日(金) 月末閉館日
10月31日(月) 月末閉館日

◎開館時間変更のお知らせ

7月28日(木) } 平日 9:00～16:30
 }
8月31日(水) } 土曜日 9:00～12:30

※9月1日(木)より平常開館します。ただし、9月3,10,17,24日の各土曜日は午後12時30分までとなります。

◎夏休みの特別貸出について

◇学生の貸出①一般貸出

冊数 4冊（一夜貸出を含む）
期間 歯学部
貸出開始 7月4日(月)から
返却期限 9月7日(水)まで
文学部・短大部
貸出開始 7月21日(木)から
返却期限 10月1日(土)まで

◇学生の貸出②卒論・卒研貸出

冊数 5冊
期間 7月4日(月)から8月31日(水)
までに借りた図書は10月3日(月)までに返却

◇教職員の貸出

冊数 10冊
期間 学生の卒論・卒研貸出と同様

◇図書館学講習生

冊数 1冊（一夜貸出を除く）
期間 1週間
貸出開始 7月2日(土)から

貸出終了 9月29日(木)まで

◎保育科2年生の特別貸出について

保育科2年生の卒業課題作成を対象とした特別貸出は下記の要領で実施します。

冊数 3冊

期間 2週間

貸出開始 9月26日(月)から

貸出終了 12月10日(土)まで

◎視聴覚サービスのお知らせ

◇個人ブース及び共同利用室開室日

7月27日(水)まで開室します。

7月28日(木)～9月24日(土)は閉室し、9月26日(月)から平常に戻ります。

◎閲覧用の分類目録が一時利用できません

蔵書目録作成のため、閲覧用カード目録のうち分類目録が7月20日から8月末日まで利用できません。ご了承ください。

◎展示のお知らせ [予告]

「近代文学の叢書」展

11月5日(土)～19日(土)

当館で現在も蒐集している近代文学コレクションのうち、そのメインの一つになっているのが明治から大正にかけて刊行された叢書の類である。『日本近代文学大事典』によると明治期で119、大正期で133をみるが、その揃いを現在購うことは極めて困難なものが多い。例えばこの叢書類の先駆的な存在である『新著百種』は明治22年から24年にかけて全18冊を吉岡書籍店より刊行。第一号には紅葉の「二人比丘尼 色懺悔」を収録するなど文学史的に著名なものが多いだけでなく、その装釘や挿絵は今だに光彩を放っているものばかりである。この叢書は同様のものが多く、その中から選りすぐって紹介したい。

アゴラ——鶴見大学図書館報—— 第36号 1988年7月1日発行

鶴見大学図書館発行（館長 千葉元承）〒230 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 045-581-1001